

平成 20 年度 第4回
産業界から見た土木高等教育のあり方に関する検討小委員会
議事録

日 時：平成 20 年 10 月 22 日（水）15：00～17：00

場 所：土木学会 E会議室

出席者（敬称略）

：村田、吉川、井上、東、河野、吉原、尾高、室井、関根、正本
（欠席：上野、池田 オブザーバー：田中）

- 議 題
1. 議事録の確認
 2. キャリアパス（階層別役割）
 3. 既往教育資料の整理
 4. その他（親委員会への対応）

- 配布資料
- 資料－4-1：前回議事録（H20 第3回）
 - 資料－4-2：キャリアパス（役割）
 - 資料－4-3：既往教育資料（概要）
 - 資料－4-4：親委員会への対応

議事概要

1. 前回議事録の確認

- ・ 資料 4-1 に基づき、前回議事録内容を関根委員が説明。

2. キャリアパス

吉川委員より、4-2(1)～(3)のゼネコン・コンサルのキャリアパスの概要について説明があった。

- ・ 呼称について、完成期を発展期、成熟期を完成期と改める。
- ・ 40代の初めが、ゼネコンもコンサルもキャリアパスのターニングポイント。入社20年が節目に当たることを示す。
- ・ 必要な教育から建築関係の資格は外す。
- ・ 表枠のタイトル「必要な教育」は、「必要な教育と資格」等資格を追記する。
- ・ 年収や役職名称を示したり、「現場でバリバリ」等のキャッチコピーを使って、もっとイメージが沸き易くする。
- ・ 各委員は修正・追加意見を吉川委員に連絡。吉川委員には取り纏めをお願いする。

吉原委員より、4-2(4)の東京都のキャリアパスについて説明があった。

- ・ 東京都のキャリアパスは、全国の自治体では特異な例。標準的な自治体のキャリアパスの整理も望まれる。

3. 既往教育資料の整理

村田委員長より、4-3について説明があった。

- ・ 建設業界では OJT が重要になっている。最近では現場で教えられる人材が減っており OJT が出来なくなっている。
- ・ 企業の大きさによっても、求める教育の内容が異なる。
- ・ 土木屋と呼ばれるための最低限必要な常識科目はしっかり教えることが必要。
- ・ 企業規模によるニーズの違いに応じて、高校・高専・大学で教育内容の分担を提案できないか、今後議論する。
- ・ 本小委員会から必要な科目・授業をリストアップして教育界に提案する。

4. その他（親委員会への対応）

- ・ 村田委員長より、4-4に基づいて、親委員会からの要請（平成 21 年度の行動計画策定と本年度の自己評価）の説明があった。
 - ・ 行動計画と自己評価とも、委員長一任となった。
- ・ 次回小委員会 平成 20 年 11 月 25 日（火） 15 : 00～

以 上